環境経営レポート

2022 年度版

【2022年8月1日~2023年7月31日】

発行日: 2023年10月20日



●株式会社岡部機械工業

目 次

1.	組織の概要	P1
2.	環境経営方針	P2
3.	S D G s 取組方針	Р3
4.	環境経営システム組織図	P4
5.	2022 年度環境経営目標	P5
6.	環境経営計画と取組内容	P6∼P8
7.	その他の取組	P8∼P13
8.	12 期環境経営目標と実績のまとめ、12 期の評価と 13 期の取組	P14~P16
9.	環境関連法規等の遵守状況	P17
10.	代表者による全体評価と見直し	P18

1. 組織の概要

(1) 事業者名及び代表者名 株式会社 岡部機械工業 代表取締役 星場俊之

(2) 所在地

認証・登録対象組織

本社	徳島県阿南市才見町旭越山 25-1
才見工場	徳島県阿南市才見町旭越山 12-1
上中工場	徳島県阿南市上中町南島 221-1
橘湾事業所	徳島県阿南市橘町小勝3番地 電源開発(株)内
小松島出張所	徳島県小松島市豊浦町1 日本製紙(株)内

(3) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 管理部: 岡部さおり TEL: 0884-22-2750 環境事務局 管理部: 土佐野絵里 TEL: 0884-22-2750

(4) 事業内容

(6)

自動省力化機械・各種産業機械の設計・製作・据付工事機械・装置等製造業並びに建設業(機械器具設置工事業、鋼構造物工事業、 管工事業、とび・土工工事業、電気工事業)

(5) 事業の規模(12 期末時)

資本金20 百万円売上高13.8 億円/年

従業員92名工場建物延べ床面積3,760 m²事業年度8月~7月

環境経営方針

基本理念

私たち 株式会社 岡部機械工業は、自然と環境を大切に、持続可能な社会の実現を目指します。

機械の設計・製作を通じて、エネルギー省力化を目指し、安全・安心の自動省力化機械の提供に取り組む ことで、社会全体の環境負荷削減に取り組みます。

また、産業機械の分解・点検・修理を行うことにより、今あるものを長く安全に使用することで、持続可能な社会に貢献していきます。

以上のことに取り組みながら、すべての利害関係者の方々に感謝し行動します。

方針

- 1. お客様に満足いただける製品を提供し、利益を生みながらも環境影響を考慮し、SDGs を目指した企業 活動に取り組みます。環境に対する関心度を高めて、さらなる省エネ・省資源対策の徹底を実践します。
 - ・二酸化炭素排出量(電気・燃料 使用量)の削減
 - ・水使用量の削減
 - ・廃棄物の削減
 - ・コピー用紙使用量の削減
 - ・化学物質の適正管理
 - ・グリーン購入の推進
 - ・環境に配慮した製品・サービスの提供並びに施工
- 2. 環境関連の法令、規制、協定等を遵守し、顧客、地域社会に対して負の影響を及ぼさない事業活動を行います。
- 3. 社会貢献に努めます。
 - 会社周辺の清掃活動の実施
 - ・災害時の避難受入れ
- 4. 環境経営システムを定期的に見直し、継続的に改善を図ります。
- 5. 社員全員がこの方針を理解するとともに、実践することで環境に対しおもいやりを持ちます。
- 6. この方針は、ホームページ等で一般に公表し、環境活動に活かします。

制定日: 2009年10月30日

改訂日: 2020年11月20日

株式会社 岡部機械工業 代表取締役 星場俊之

株式会社岡部機械工業 SDGs 取組方針

《理念》

当社は持続可能な開発目標「SDGs」に賛同し、その目標達成に向けて企業の社会的責任を自覚しながら 主体的に取り組んでまいります。

《取組方針》

1. 魅力のある地域社会実現への取組み

社会貢献活動や環境保全などの取組みによって、地域の人々が安心して生活できる持続可能な社 会の実現を目指します。

2. 経済活動による健全な発展と環境活動への取組み

当社の事業活動を通じて、地域経済の発展に貢献すると共に、環境影響の低減を目指します。

【当社の SDGs の取組み】

★海岸や会社周辺の清掃活動と環境保全活動



★クリーンエネルギー(再生可能エネルギー)の創出および活用



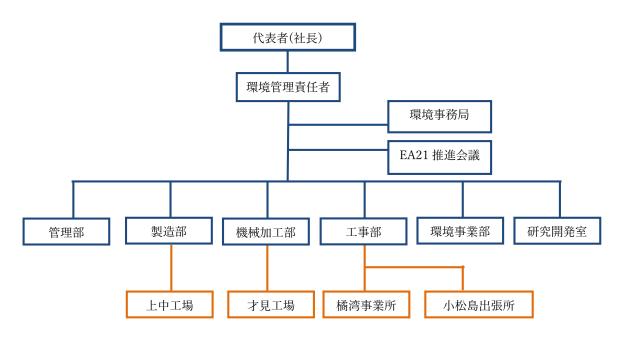
★「健康経営優良法人」の認定



★地方から全国に向けての事業の取組み発信



4. 環境経営システム組織図



※全組織・全活動を認証・登録の対象範囲とする。

	役割・責任・権限
代表者(社長)	・環境経営に関する統括責任 ・資源の準備(人員、設備、費用等) ・環境経営方針の策定・環境管理責任者を任命 ・代表者による全体の評価・見直し
環境管理責任者	・環境経営システムを構築・実施・管理 ・環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ・「環境関連法規制一覧表及び遵守チェック表」の作成並びに遵守チェック ・環境経営目標及び環境経営計画書の作成 ・環境経営計画の実績集計 ・環境経営の取組結果を代表者へ報告
環境事務局	・E A 21 推進会議の事務局 ・「環境関連法規制一覧表及び遵守チェック表」の作成並びに遵守チェック ・特定された緊急事態への対応のための手順書作成、テスト・訓練・記録 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口
EA21 推進会議	 ・EA21 推進会議の実施 ・環境関連の勉強会の開催 ・EMS の実施とスパイラルアップ ・EA21 推進会議の記録と周知 ・内部監査の実施
部門長	・自部門における環境経営システムの実施 ・自部門における環境経営方針の周知、教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境経営目標及び環境経営計画の実施及び達成状況の報告 ・特定された項目の手順書作成及び運用管理 ・自部門の問題点の発見・是正・予防処置
全従業員	・環境経営方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

5. 2022 年度 環境経営目標

環境経営目標【全社】 ※環境経営目標は当社8期(2018.8~2019.7)を基準年度とした。

2	15 H		8期 実績	9期目標	10期 目標	11期目標	12期 目標	13期 目標	14期 目標	15期 目標
項目		2018.8~ 2019.7	2019.8~ 2020.7	2020.8~2021.7	2021.8~ 2022.7	2022.8~ 2023.7	2023.8~ 2024.7	2024.8~ 2025.7	2025.8~ 2026.7	
att 4)使用量	k W h	211,534	209,419	207,303	205,188	203,073	200,957	198,842	196,727
电人	八天川里	K W II	(基準)	(99%)	(98%)	(97%)	(96%)	(95%)	(94%)	(93%)
村 安全	使用量	e	20,661	20,454	20,248	20,041	19,835	19,628	19,421	19,215
Print"	下灰川里	~	(基準)	(99%)	(98%)	(97%)	(96%)	(95%)	(94%)	(93%)
CO	排出量	kg-CO ₂	162,977	161,348	159,718	158,088	156,458	154,829	153,199	151,569
CO	2197山里	kg-CO ₂	(基準)	(99%)	(98%)	(97%)	(96%)	(95%)	(94%)	(93%)
roin.	一般	kg	5,661	5,604	5,548	5,491	5,435	5,378	5,321	5,265
廃棄	廃棄物	, vg	(基準)	(99%)	(98%)	(97%)	(96%)	(95%)	(94%)	(93%)
物	産業	kg	22,386	22,162	21,938	21,714	21,491	21,267	21,043	20,819
	廃棄物		(基準)	(99%)	(98%)	(97%)	(96%)	(95%)	(94%)	(93%)
ak .	使用量	щ	551	545	540	534	529	523	518	512
4	区川里		(基準)	(99%)	(98%)	(97%)	(96%)	(95%)	(94%)	(93%)
化	学物質	l	929	920	910	901	892	883	873	864
侵	 長用量		(基準)	(99%)	(98%)	(97%)	(96%)	(95%)	(94%)	(93%)
グ	リーン	17	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
購	入推進	00	(基準)							
	環境に配慮した製品、		199	204	209	214	219	224	229	234
サー	ビスの提供	及び施工	(基準)	+5件	+5件	+5件	+5件	+5件	+5件	+5件
事系	事務所周辺の清掃活動 (回/年)		12回	12回	12回	12回	12回	12回	12回	12回
	経営戦略		0回	ľ	8回	12回	12回	12回	12回	12回

- ・対象事業所は全事業所とする。 ・CO₂調整後排出係数: 0.462(kg- CO₂/kWh)(四国電力株式会社 平成 30 年度)
- ・グリーン購入推進の目標については、グリーン購入したことのある対象品目に対して 100%達成を目指す。

環境経営目標【建設工事】 ※環境経営目標は当社8期(2018.8~2019.7)を基準年度とした。

	項		8期 実績	9期目標	I O期 目標	期 目標	12期 目標	13期 目標	14期 目標	15期 目標
Į			2018.8~ 2019.7	2019.8~ 2020.7	2020.8~ 2021.7	2021.8~ 2022.7	2022.8~ 2023.7	2023.8~ 2024.7	2024.8~ 2025.7	2025.8~ 2026.7
CO	排七串	kg-CO ₂	14,656	14,509	14,362	14,216	14,069	13,923	13,776	13,630
	CO ₂ 排出量		(基準)	(99%)	(98%)	(97%)	(96%)	(95%)	(94%)	(93%)
	ガソリン	ę	606	600	594	588	582	576	570	564
燃	13 / 12	O	(基準)	(99%)	(98%)	(97%)	(96%)	(95%)	(94%)	(93%)
料	軽油	ę	5,115	5,064	5,013	4,962	4,910	4,859	4,808	4,757
	平主/四		(基準)	(99%)	(98%)	(97%)	(96%)	(95%)	(94%)	(93%)
j.	産業		623.8	617.6	611.3	605.1	598.8	592.6	586.4	580.1
廃	棄物	k g	(基準)	(99%)	(98%)	(97%)	(96%)	(95%)	(94%)	(93%)
化	化学物質		73.0	72.3	71.5	70.8	70.1	69.4	68.6	67.9
偵	用量	િ	(基準)	(99%)	(98%)	(97%)	(96%)	(95%)	(94%)	(93%)

- ※ 建設工事の電気・水道等は他企業と共用で把握できない為、廃棄物・燃料・化学物質を管理する。
- ・ CO_2 調整後排出係数: $0.462(kg-CO_2/kWh)$ (四国電力株式会社 平成 30 年度)

6.環境経営計画と取組内容

電力の削減	
<u> </u>	エアコン使用時は、デマンド上昇対策として各エアコン ************************************
き続き行う	の電源ON時間を示す「札」の表示が出来ていました。
S 101 G 11)	又、改善提案を利用してエアコン設定温度と電気料金
	についての周知をしてもらえた事で、節電の意識が広
	まりました。
五千。权比 久壬。壬、芒	
夏季の軽装、冬季の重ね着	ウォームビズ・クールビズの工夫をしています。今年も猛暑でしたが、ネッククー
等の工夫を行う	ラー等便利グッズが口コミで広がり、他部署現場で導入したという事もありました。
カーボンニュートラルへ	電気効率を考えながら非使用時の電源 OFF の徹底をし、エアコン温度設定は社内パ
一の取り組み	トロール時に是正をしたり、内部監査で話し合いをし、意見交換しました。購入品
	も材料や廃棄時を考えた環境に優しい商品を選ぶようにしています。
新型コロナ感染防止対策	新型コロナが第 5 類に引き上げられた事もあり、エアコン使用時も適度に換気を行
と環境負荷削減の模索 (ア	いました。手洗いやマスクの着用等 個人で出来る対策を中心に行い、予防に努め
イデアの募集など)	ました。
燃料の削減	
仕事内容を考え最適な車	乗り合わせや用途に合わせた車種選択も各部門に浸透しています。
種の選択	
急発進、急加速の抑制	各部門の記録にも、環境に配慮した運転を心掛けているとのコメントが多くありま
	した。
不必要な荷物は積まない	5S委員会の活動も活性化してきており、整理整頓の観点からも不必要な荷物は積ま
	ないように出来ています。
エコドライブの継続的な	「あなたは5秒で時速何km?」 800には5秒で 6月は環境月間です
情報提供	「環境月間」、「脱炭素社会」等
	リーフレットを各省庁HPより
	引用・作成して周知しました。
	The second secon
 一般廃棄物の削減	
ダンボールの廃棄ルール	段ボールの年間排気量は 2800kg になり、全体の 51.4%を
の徹底	占めます。可燃ゴミが 2,161kg で 40%になり、両方で
1100-25	大半を占めています。段ボールは仕事量に伴い増えてしまい
	がちですが、社内で再利用し、ゴミの削減に努めています。
	N 9 C 7 N V IEI I C I J V J I J V J C V S P J V C V S P S V C V S
会社全体での3Rの実行	木のパレットは、空いた時間に「すのこ」に作り変える等、再利用出来ていました。
ペーパーレス化	可能な限り、印刷せずに PC 画面で確認する等 工夫をして紙削減に努めています
	 が、インボイス対応等で確認の為の紙が増えてしまったという事もありました。社
	 内周知は紙を減らして社内イントラネットを活用しました。
産業廃棄物の削減	
会社全体での 3R の実行	今年も昨年に引き続き、小松島出張所で大掛かりな整理を行ったので有価物が多く

	出ていますが、分別の徹底をして有価物、リサイクルできるものは取り除き、産業
	廃棄物削減に努めていました。
無駄な資材、機材を購入し	仕事でプラ廃棄物が多く出ましたが、大量購入が安くても、必要分しか購入しない
ない	ようにするなどし、目標値以内におさまりました。
整理して廃棄する	使用済みの機械は、分解して、使用できる物と出来ない物に分け、不要な物のみ廃
	棄しました。
水使用量の削減	
適正な利用、節水に努める	本社では地下水と水道水がありますが、水道水を地下水と勘違いして夏場の散水等
	に使用している可能性があったので、蛇口に「地下水」「水道水」と表示をし、用途
	により使い分けするよう改善して対策しました。又、雑巾をクイックルワイパーへ
	変更する等、掃除方法を変更し、節水に努めました。
蛇口締め忘れ防止の徹底	台風時に洗濯機が飛び、2日間水漏れしてしまいました。それにより目標値を大幅
	 にオーバーしてしまいましたので飛ばないよう洗濯機は固縛しました。それを除い
	 ては各自、節水を意識して取り組み出来ていました。
適切な手洗い	感染症対策のこまめな手洗いは継続していますが、@除菌やアルコール消毒液を利
	 用して、節水しながら清潔を保てるようにしています。
環境にやさしい洗剤の選	「@ 除菌」の活用で、洗剤不使用による 節水 は継続して出来ています。
定	 客先では、加工時に発生する熱を冷やすクーラント液にファインバブルを
	 混ぜることで液中の酸素濃度を上昇させ、微生物を活性化させ、
	腐敗がなくなり 液の全量交換をする事がなくなったそうです。
設備の管理 見直し	機械加工部の水道蛇口から水滴が落ち、部品を交換しても直っていませんでしたが、
	修理に来ていただき、漏れがなくなりました。
化学物質使用量の削減	
在庫管理の確認を徹底す	毎月の在庫確認は各所確実に出来ていました。
3	
新規購入時の SDS 確認	新しい化学物質の法規制に対応する為に勉強会を実施し、化学物質管理責任者、保
	護具管理責任者を選任し、確認を周知しました。
リスクアセスメントを実	各部門リスクアセスメント実施出来ています。
行する	
緊急時漏洩訓練の実施	コロナ感染防止の為、2022年9月6日、 ************************************
	社内イントラネット『 イーデスク 』にて
	『漏洩・消火手順について』を周知しました。 1-1 ast man 14 15年 1-2 有限活動 15年 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17
	大雨の翌日は、会社周辺排水溝の清掃を行い、 (おおおおり) (おおおり) (おおおり) (おおまりの翌日は、会社周辺排水溝の清掃を行い、 (おおまり) (おおまりの (おおまりの) (おまりの) (おおまりの) (おおまりの) (おおまりの) (おまりの) (
	異常がないか確認しています。
最終処分の確認	法改正に伴い、全 SDS の再確認を行い、リスクの低い製品に交換出来る場合は順次
	交換しています。今年はパーツクリーナーを変更しました。
グリーン購入の推進	
グリーン対象商品購入数	購入数は昨年度より減っていますが、現実としてグリーン商品は増えていると思い
集計	ます。カウント入力忘れがないよう、再周知します。

グリーン対象商品の周知	一度決商品を決めるとリピート購入する事が多いと思います。改善提案制度を活か
	して、良い物などの情報展開し合えるように周知します。
部署単位での商品の検討	グリーン商品となると金額が少し高くなりがちなので、値段との折り合いがつく商
	品に限られます。購入商品を増やせるように探し、周知していきます。
環境配慮製品の開発・販売	促進
環境に配慮した提案、設	環境事業部では、遮熱塗料商品で暑さ対策と電力削減の提案を始めましたので、会
計、施工を行う	社案内で環境事業部の商品紹介をしました。
環境に関する教育、周知を	2022 年 12 月 17 日に、地元高校生や地域住民の方と清掃活動を行い、SDG s につい
行う	て話し合うイベントを行いました。
環境に関するアイデアの	周辺ゴミ拾いでは、市議の方や社外の方も参加していただく機会が増えました。
探求	環境ミーティングでは、海洋プラスチックのゴミ問題や、オゾン層の破壊、プラス
	チックゴミ回収 BOX について学ぶことで、作る責任、使う責任、自然に返す責任を
	考えさせられました。

7.その他の取組

会社周辺の清掃活動の実施(毎月1回実施)

	2022	2022	2022	2022	2022	2023	2023	2023	2023	2023	2023	2023
	/08	/09	/10	/11	/12	/01	/02	/03	/04	/05	/06	/07
参加人数	53	13	43	-	50	-	38	21	38	21	37	21
総 Kg	2.7	0.6	3.6	0	31	0	8.25	2.3	2.2	2.55	2.2	1.5

毎月1回、本社と才見工場が交互にゴミ拾いを実施しています。今年は12月にSDGsフォーラムを実施。近隣の方々をはじめ、阿南光高等学校、富岡西高等学校の学生や、㈱SGIC様、阿南市役所の方が一緒にゴミ拾いをした後、「ポイ捨てゴミを無くすために」をテーマに話し合いました。



災害時の避難受入れ

【備蓄品】

白米 炊込ご飯等 缶詰 ビスケット 飲料水 ティッシュ 毛布 段ボールベット 他 建物2階の安全な場所を 災害時の備蓄品置き場として います。

被災時は、近隣住民の方の受け入れも想定しており、本社 1F 食堂に休憩スペースを設置する予定です。



2023 年 5 月 17 日 [避難訓練]

2019年に実施して依頼、感染予防の為出来ていなかった避難訓練を行いました。今回はエアーベットの組立や担架を使用した訓練を行いました。組立や搬送にはかなりの力が必要なので、出来るだけ多くの方に呼び掛けをし、協力してもらう事が重要だと解りました。



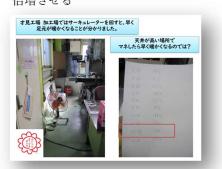
SDGsへの取り組み

SDGs への取り組み	K	
17 のゴール	ターゲット(169)	岡部機械工業での取組
	1.4 貧困層及び脆弱層が、経済的支援につ	・フードバンクとくしまに、会社の備蓄品
	いても平等な権利を持つことができる	を寄贈
	ように確保する	・フジグラン阿南にフードバンクとくしま
		のフードドライブの場所が出来たという
1 貧困を なくそう		ことで、少しですが缶詰を寄付させてい
		ただきました
Ñ¥╈╈ŧÑ		OD-COURT
	3.3 エイズや結核、マラリア、熱帯病など	・感染症対策として抗原検査の実施
	に続き、伝染病や感染症への対応を求	・体温チェック
3 すべての人に 健康と福祉を	め、新型コロナ感染症対策への対応を	・次亜塩素酸水の利用
● 健康と福祉を	求めている	
1 / C	3.4 非感染症疾患による若年死亡率を、予	・「健康経営」を通して従業員の健康を経営
- V / •	防や治療を通じて減少させ精神保健及	的な視点で考え、戦略的に実践している、
	び福祉を促進する	本社設置ドリンク自動販売機での「AWA
		がん対策募金」への寄付。
		・社内での産業カウンセリング実施
	3.6 世界の道路交通事故による死傷者を半	・全社有車にドライブレコーダーを設置
	減させる	・アルコールチェッカーによる毎日の検査
		を行い、安全運転を徹底
		・社有車の点検、洗車の外部委託
		・通勤車両の任意保険、車検証、通勤マッ
		プの確認





7.3 世界全体のエネルギー効率の改善率を 倍増させる



- ・エコアクション 21 での電力使用量、料金 を毎月全社展開
- ・毎日のデマンド管理
- ・エアコン使用時はサーキュレーターを回すことによって、早く室温が高くなることが分かりました
- 7.a 再生可能エネルギー、エネルギー効率 及び先進的かつ環境負荷の低い化石燃料 技術などのクリーンエネルギーの研究及 び技術へのアクセスを促進するための国 際協力を強化し、エネルギー関連インフ ラとクリーンエネルギー技術への投資を 促進する。
- ・本社 屋上他 計3か所に太陽光発電 設備を保有

8 働きがいも 経済成長も

8.5 若者や障がい者を含むすべての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用および働きがいのある人間らしい仕事、並びに同一労働同一賃金を達成する

- ・インターンシップ受け入れ及び雇用促進
- ・大地あなんに段ボール回収業務を依頼



9.2 包摂的かつ持続可能な産業化を促進 し、各国の状況に応じて雇用及び GDP に 占める産業セクターの割合を大幅に増加 させる。後発開発途上国については同割 合を倍増させる ・研究開発室での画像処理技術開発



- 10.3 差別的な法律、政策及び慣行の撤廃、 並びに適切な関連法規、政策、行動の促 進などを通じて、機会均等を確保し、成 果の不平等を是正する
- ・女性の育児休業 100%取得の為に、 「育児支援シート」を作成し、該当者へ フォローしている



- 11.3 包摂的かつ持続可能な都市化を促進 し、すべての国々の参加型、包摂的かつ 持続可能な人間居住計画・管理の能力を 強化する。
- ・近隣の会社と共に、会社周辺ゴミ拾いを 毎月一回実施 分別した量を計量
- 11.7 女性、子供、高齢者及び障がい者を含め、人々に安全で包括的かつ利用が安易な緑地や公共スペースへの普遍的アクセスを提供する。
- ・才見工場周辺に阿南市が才見地区の防災 倉庫を設置して災害へ備えています

	10.4 人立之 10.4 同脚丛 2 46日 9 1-201	小兴州所の大庄英田 (CDC 英田)
	12.4 合意された国際的な枠組みに従い、製	・化学物質の在庫管理 (SDS 管理)
	品ライフサイクルを通じ、環境上適正な 	・化学物質管理者、保護具着用管理責任者
	化学物質や全ての廃棄物の管理を実現	の任命
	し、人の健康や環境への悪影響を最小化	・漏洩訓練の実施
	するため化学物質や廃棄物の大気、水、	
	土壌への放出を大幅に削減する	
	12.5 廃棄物の発生防止、削減、再生利用及	・エコアクション 21 にて廃棄物管理と周知
	び再利用により、廃棄物の発生を大幅に	・ゴミ分別の徹底(パトロール実施)
■ つくる責任	削減する。	・循環資源の管理と推進
Ζ つかう責任	12.6 特に大企業や多国籍企業などの企業	・エコアクション 21 の環境レポート作成
00	に対し、持続可能な取り組みを導入し、	・環境レポートを自社ホームページで公開
	持続可能性に関する情報を定期報告に盛	し、玄関に設置して持ち帰り可とする
	り込むよう奨励する。	
	12.7 国内の政策や優先事項に従って持続	・エコマーク製品、グリーン製品の積極的
	可能な公共調達の慣行を促進する。	な購入促進
	12.8 人々があらゆる場所において、持続可	・通勤に徒歩や自転車出勤
	能な開発及び自然と調和したライフスタ	・自転車・バイク置き場の整備
	イルに関する情報と意識を持つようにな	
	3.	
1つ 気候変動に	13.1 全ての国々において気候関連災害や	・海岸沿いから現在の才見町へ本社、加工
■● 具体的な対策を	自然災害に対する強靭性及び適応の能力	場を移転
	を強化する	・年に1度、BCP 図上訓練、避難訓練を
		実施
14 海の豊かさを 守ろう	14.1 海洋ごみや富栄養化を含む、特に陸上	・阿南市ビーチクリーン活動へのボランテ
■ 守ろう	活動による汚染など、あらゆる種類の海	ィア参加
****	洋汚染を防止し大幅に削減する	

EA21 推進会議では、各部から推薦された部員が、会社や家庭での環境への取組の話し合いや、持ち回りの勉強会を開催する事で、より環境への知識や意識を深めていくことが狙いとなっています。 推進会議は年に 2~3 回開催され、・EMS 記録の反省、テーマを決めた話し合い、勉強会の構成で実施しています。 今期は 計3回 開催されました。

2022年10月25日(火) 13:00~13:40 14名

- ・EMS 記録 11 期の実績について
- ・動画 【地球温暖化 じゃあ、どうしたらいいの?】 国立環境研究所 江守先生



・勉強会【スーパー設置の回収ボックス】 機械加工部 森(淳)

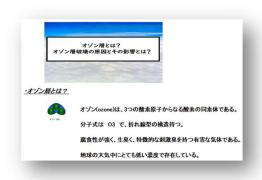


2023年2月21日(火) 13:00~13:40 13名

- ・12 期半年間の集計結果について
- ・デマンド分析(30分毎の最大電気需要量)

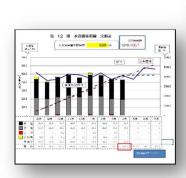


・勉強会【オゾン層とは?オゾン層破壊の原因とその影響とは?】 製造部 久積



2023年5月25日(木)12:53~13:50 15名

- ・EMS 記録 9 ヶ月分 (8 月~4 月) 実績について
- ・環境法令(新しい化学物質規制について)
- ・もしも水漏れがなかったら…





・勉強会【海洋プラスチックごみ問題に ついて】

製造部 牧野



8. 12 期環境経営目標と実績まとめ、12 期の評価と 13 期の取組

環境経営実績【全社】 12期 2022年8月~2023年7月

項	i	目	12期 目標 2022.8	12期 実績~2023.7	達成率 (%)	評価
CO ₂	非出量	kg-CO ₂	156,458	156,311	100	0
電力化	使用量	kWh	203,073	221,643	92	0
燃料		g.	19,835	21,527	92	0
廃	一般 廃棄物	kg	5,435.0	5,438.5	100	0
樂物	産業 廃棄物	kg	21,491.0	16,498.9	130	0
水使	用量	m	529.0	645.2	82	Δ
	化学物質 使用量 g		892.0	658.9	135	0
グリーン	グリーン購入推進		100%	100%	100	0
環境に配慮した製品、 サービスの提供及び施 エ		件	219	268	122	0
事務所周辺の 清掃活動		回	12	10	83	Δ
経営	戦略	P	12	12	100	0

<評価基準> ○:90~100%、 △:70~89%、 ×:70%未満

環境経営実績【建設工事】 12期 2022年8月~2023年7月

	-	12期目標	12期 実績	達成率	評価
項	項目		2022.8~2023.7		
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	14,069.0	20,011.1	70	Δ
燃料類	l	5,492.0	7,781.85	71	Δ
産 業 廃棄物	k g	598.8	457.2	131	0
化学物質 使用量	l	70.1	68.53	102	0

※ 建設工事の電気・水道等は他企業と共用で把握できない為、廃棄物・燃料・化学物質を管理する。 <評価基準> \bigcirc :90~100%、 \triangle :70~89%、 \times :70%未満

※建設工事の電気・水道等は他企業と共用で把握できないため、廃棄物・燃料・化学物質を管理する。

電力の削減

目標値 203,073 k W h のところ 9%オーバーの 221,643 k W h でした。厳しい寒さ、暑さにより、エアコン・加除湿器は欠かせませんでした。昨年に比べて使用量は減っていますが、燃料費の高騰の為、電気代は上がっています。クールビズやウォームビズ、サーキュレーターの活用等行っていますが、今後は出勤時間等 働き方を見直していく必要も感じます。

燃料の削減

全社目標 19,835L に対し、使用量が 21,527L となり、9%のオーバーで、昨年の 24%に比べて削減出来ました。 建設工事では 42%もオーバーしてしまったのですが、11 期と比べると 25%削減しました。工事件数と、現場が県外という距離も影響していますが、乗り合いが出来る場合はなるべく乗り合いし、使用車両数を減らす等しています。

一般廃棄物の削減

一般廃棄物排出量は、目標値が 5,435 k g に対し、5,438.5kg と、ほぼ 100%で達成出来ました。 プラスチック削減に伴い、紙の使用が増えていますが、裏紙としてリユースしたり、分別してリサイクルすることで、全体的に見ると削減出来ています。購入の際は必ずラベルを確認しています。全社的にもペーパーレス化への意識や、裏紙使用は増えていると感じます。

産業廃棄物の削減

産業廃棄物排出量は、目標値が 21,491 k g に対し、 16,498.9kg になりました。年目標はクリア出来ました。 今年も昨年に引き続き小松島出張所の整頓があり、有価物が 多く出されたので、排出量は増えました。



8 m³の産廃BOX <mark>処理費用</mark> ¥140,800(税込)

アルミ、SUS、鉄、電線は 分別してドラム缶へ

水使用量の削減

水使用量は、目標値が 529 ㎡に対し、645.2 ㎡と、22%オーバーしました。各自が節水に努めていましたが、設備の不具合や破損による漏れ水という、もったいない使い方をしてしまいました。今後、このような事を防ぐ為にも、こまめな巡視や確実な台風対策等、予防をしていきたいと思います。

化学物質使用量の削減

化学物質使用量は目標値が892Lに対し、658Lで目標達成できました。法改正に伴い、全てのSDSの再確認を各部門で実施し、安全へのリスクの少ない溶剤に変更するなど各部門で見直しを進めています。

グリーン購入の推進

プラスチックのクリアファイルを紙ファイルにする等、出来るだけ廃棄時を考えて購入するようにしています。紙の製品はグリーン購入対象商品が多いので、購入の際は積極的に探していきたいと思います。

環境配慮製品の開発・販売促進

環境事業部では、暑さ対策と電力削減の遮熱塗料の販売等を始めました。又、研究開発室では 作業効率化、省エネ化ができるように検査装置の開発を行っています。

経営戦略

人事考課制度で、現在の評価方法を見直し、「行動目標」、「数値目標」、「スキルマップ」の三本柱で検討を進めています。14 期からの運用に向けて調整中です。又、人事採用面では、応募者が少ない事もあり、インターネットを利用した企業説明会への参加や、県や人材紹介会社等の外部機関にも協力を得ています。インターンシップの機会を新卒採用のチャンスとして捉え、工場見学や職業体験を通して記憶に残る内容になるように工夫しています。社内行事もコロナ前に戻りつつありますが、以前よりも良い、コミュニケーションを図りやすいイベント開催が出来るように知恵を出し合い、進めることで経営品質を高めていきたいと考えています。

13期の取組【全社 建設工事】

電力の削減 水使用量の削減 ・デマンド削減の取り組みを引き続き行う ・蛇口の閉め忘れ防止の徹底 ・夏季の軽装、冬季の重ね着等の工夫を行う ・環境にやさしい洗剤の選定 ・カーボンニュートラルへの取り組み ・地下水の利用 ・改善提案など意見を集めて環境負荷削減の模索 ・設備の管理、手入れ 燃料の削減 化学物質使用量の削減 ・仕事内容を考え最適な車種の選択 ・在庫管理の確認を徹底する ・急発進、急加速の抑制 SDS確認を徹底する ・リスクアセスメントを実行する ・不必要な荷物は積まない ・エコドライブの継続的な情報提供 緊急時漏洩訓練の実施 ・高速道路走行前は給油をしておく 最終処分の確認 一般廃棄物の削減 グリーン購入の推進 ・ダンボールの廃棄ルールの徹底 ・グリーン対象商品購入数集計 ・会社全体での 3R の実行 ・グリーン対象商品の周知 ペーパーレス化 ・部署単位での商品の検討 ・必要のないカタログは受け取らない、電子化 産業廃棄物の削減 環境配慮製品の開発・販売促進 ・会社全体での 3R と 5S の実行 ・環境に配慮した提案、設計、施工を行う ・無駄な資材、機材を購入しない ・環境に関する教育、周知を行う ・環境に関するアイデアの探求 ・整理して廃棄する

9.環境関連法規等の遵守状況

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	法規の基準・規制値	規制の適用・該当施設	遵守
浄化槽法	・浄化槽設置の届出	浄化槽	0
	・法定検査、点検、清掃結果の		
	届出		
騒音規制法	・特定施設の届出	圧縮機(県条例 3.75kW 以	0
	・地域住民の苦情への対応	上)	
		【徳島県生活環境保全条例】	
振動規制法	・特定施設の届出	圧縮機(県条例 3.75kW 以	0
12/2///12/12	・地域住民の苦情への対応	上)	
		【徳島県生活環境保全条例】	
廃棄物処理法	・産業廃棄物の委託契約の締結	•一般廃棄物	0
	・マニフェストの適正管理	・産業廃棄物	
	・廃棄物置き場の保管基準遵守	1276/1027617	
化学物質排出把握管理促進法	・化学物質の適正な管理	シンナー、塗料類	0
フロン排出抑制法	・フロン類の適切な処理	エアコン	0
労働安全衛生法	・特定化学物質、有機溶剤等を	特定化学物質・有機溶剤	0
/ // · // // // // // // // // // // //	使用する際の作業環境改善	的足化于物質 自城俗州	
 特定化学物質障害予防規則	・特定化学物質を使用する際の	 特定化学物質(使用実績無	0
付足化于物質障害了例規則 	作業環境改善作業環境改善	し)	
 有機溶剤中毒予防規則	・有機溶剤を使用する際の	しり	0
有機俗用中母了的規則 	- 有機俗用を使用する際の - 作業環境改善	有傚份則	
每小		却充冰光洛機 (刑一) 化宁)	0
電波法	・特定施設の届出	超音波洗浄機(型式指定)	
克展 11 1 2 5 5 2 5	・地域住民の苦情への対応	これが、火歩床、コフェン	
家電リサイクル法	・指定家電の回収処理	テレビ、冷蔵庫、エアコン、	
「副内房リリノを、注	松克 L 到春 5 日 10 10 11 11	洗濯機	
小型家電リサイクル法	・指定小型家電の回収処理	電話機、デジカメ、PC等	0
自動車リサイクル法	・自動車の回収処理	自動車	0
消防法	・指定数量以上の危険物の保管	軽油等	0
高圧ガス保安法	・高圧ガス置場における保管	酸素、CO ₂ 、LPG、アセチ	0
		レン	
省エネ法	・原油換算し、使用原油量の把	・電気・灯油・燃料	
	把握 把握	・特定事業者に該当しない	
	・原油 1500 k L 使用すると		
	特定事業者になり届出が必要		
徳島県脱炭素社会の実現に向	・温室効果ガスの排出量の把握	・CO ₂ 排出量	
けた気候変動対策推進条例	・温室効果ガス排出の抑制	・計画書等は該当しない	
	・特定事業者は、地球温暖化の		
	防止に関する計画書を作成		
	し、知事に提出		
阿南市環境基本条例	事業者の責務・・・自然環境との調和に配慮しその責任と負担		
	に於いて		
	必要な措置を講じる		
(四)立と 日本 本 本 本 上 人 日	月が小日とり告亡体の比較 光がに	三七三八分コンナ カ ナ コン	

環境法規制等の逸脱はなく、関係当局より違反等の指摘、並びに訴訟等はありません。 また、関連当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。

10.代表者による全体評価と見直し

今年5月には新型コロナウイルス感染症が第5類に分類され、3年間続いてきた制約のある状態から脱しつつあるものの、物価高騰や金利上昇など、経済的にも環境面においても外部環境変化が非常に激しい状況が続いており、一企業だけでは対応が難しい場面も増えてきたように感じられます。

弊社では昨年より中長期経営計画が走り出し、サスティナビリティ戦略として気候変動や循環型社会への取組みの継続・強化、SDGsへの対応を進めております。地球温暖化の影響は世界的に見ても日本が上位になっており、毎年のように発生する豪雨災害や台風災害など、数年前と比べても明らかにリスクが身近なものとなってしまっています。気候変動対策としてはEA21に準拠しながら電気使用量の削減や廃棄物の削減を一人ひとりが取り組みながら、中長期的な視点で少しでも後世にしわ寄せをさせない意識付けが必要となります。

また、リサイクル・リユースを始めとした循環型社会への取組みについても、各部門での取り組みが改善 提案などにて社内で情報共有がなされ、他人事ではなく自分事として考えられるようになってきたのでは ないでしょうか。

12期においては昨年と同様に業務量に影響される面があり、また水使用量については設備面での不具合などで目標未達の項目が多くなってしまいました。作業場所の広域化も未達の影響が少なからずあったかと思います。

季節が変わるたびに会議などで節電やエアコンのON/OFFの声掛けが出来てきているため、節電意識は 高まっていると感じています。

EA21推進会議では毎回ファシリテーターが代わり、それぞれの視点で勉強会が開催されるなど、モチベーションの観点からも良い取り組みになっています。過去からの延長線上だけではなく、外部情報や研修などを受けてより幅広い運営を期待しているところです。

前期に検討していた「太陽光発電設備を投資無しで行う」PPA(Power Purchase Agreement)については、国や自治体の方針などの情報も得ながら、最適な取り組みを実施出来ればと考えており、引き続き検討していきたいと思っています。

クリーンエネルギーとして考えられている太陽光発電や風力発電、水力発電などの導入が日本国内外で進んではおりますが、森林伐採や環境保全面での課題など経済合理性に進む傾向が見られておりますが、過去を振り返ってみるともっと違った対応が必要な部分があるのではないかと考えられます。

今を生きる我々世代は未来を創る責任世代として、社員の家族の事、自企業の事、地域の事を考えながら、 今年度も取り組んで参ります。



株式会社岡部機械工業

代表取締役 星場 俊之